

○１０番（深谷秀峰議員） おはようございます。１０番深谷秀峰です。通告に従い質問いたします。

ちょうど半年前の３月定例議会一般質問で、私は、新型コロナウイルス感染症対策を取り上げました。中国武漢市で初めて感染者が確認されてから３か月時点で、世界約６０か国で感染者数は９万人、死者数は３、０００人を超えたところでした。日本では、２８都道府県で感染が確認され、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号と中国からチャーター機で帰国した感染者を合わせて１、０３４人の感染者で、死者数は１２名でした。

ところが現在、世界の２００以上の国と地域において、感染者は２、５７０万人を超え、死者数は８５万人を上回りました。我が国においても全都道府県で感染者が確認され、その数は昨日までで７万３６８人、死者数は１、３００人を超えています。本県でも感染者は５５５人、亡くなった方は１４人となってしまいました。

世界中で感染拡大が続いている、この新型コロナウイルス感染症は、社会経済活動にも大きな影響を及ぼし、私たちの今までの生活様式さえも変えてしまったと言えます。国内での感染拡大が続く中、４月１６日、政府は「特別措置法」に基づく緊急事態宣言を、それまでの７都道府県から全都道府県に拡大し、不要不急の外出やイベント開催の制限、帰省や旅行など都道府県をまたいでの移動を自粛するよう要請いたしました。５月２５日の解除後も、一旦は感染者数の減少が見られたものの、東京都など都市部では各所でクラスターが発生して、緊急事態宣言以前より感染拡大が続いている状況にあると言えます。

このような状況の中で、大きな影響を受けているのは各地の観光施設であり、政府では７月２２日から始まったＧｏＴｏトラベルキャンペーンなど、落ち込んだ観光需要の喚起を促してきましたが、コロナ禍の中では、以前のような観光地のにぎわいを取り戻すのは容易なことではありません。本市においても例外ではなく、現況はどうか、どのような対策を講じているのか、観光事業の振興の面で、コロナ禍の観光振興の考え方をお聞きいたします。

まず初めに、温浴施設の現況と対策であります。

本市では、金砂の湯、竜っちゃん乃湯、ぬく森の湯など、これまで多くの利用者が訪れていた温浴施設がありますが、今回の新型コロナウイルス感染症拡大によって、いずれも大きな打撃を受けています。温浴施設は、ともすれば密閉・密集・密接の３密の状態になりやすく、徹底した感染防止対策が必要となってきます。

そこで、これらの温浴施設の入り込み客数はどのようにになっているのか。感染症防止対策はどのように取り組んでいるのか。また、収益が減っている中で施設の運営や雇用の維持などの課題にはどのように対処しているのか、お伺いいたします。

次に、道の駅ひたちおおたの現況と対策についてであります。

地場産業の振興や交流人口の拡大を目指し、県内１３番目の道の駅として２０１６年７月にオープンした本施設は、今年の２月２７日に来場者数３００万人を達成いたしました。これまで順調に県内外から多くの来場者が訪れていた道の駅ひたちおおたにおいても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は計り知れず、いかにしてこの苦境を乗り越えていくかが今後の大きな課題と

なっています。

そこで、感染拡大が叫ばれていた時期、3月から7月の売上額と利用者数の推移はどのようなになっているのか。また、運営上の課題として、入居しているテナントへの対応や集客策などの取組、雇用の維持など、どのように行っているのか、お伺いいたします。

そして、道の駅という施設の性格上、県内外から不特定多数の来場者が訪れるため、感染防止にはより慎重に取り組んでいると思いますが、どのように対応しているのか、お伺いいたします。

3番目は、竜神峡エリア、里美牧場エリアの現況と今後の振興策であります。

新型コロナウイルス感染症拡大で、県をまたいでの移動やイベント等の開催が自粛されてきました。その中で今、脚光を浴びているのが、キャンプなどアウトドアレジャーと言われております。本市の重要な観光資源である竜神峡と里美牧場は、その周辺エリアに幾つものアウトドアレジャー施設があり、コロナ禍とはいえ、第2次キャンプブームの中、誘客を図っていくことは十分可能なのではないかと思います。

そこで、竜神峡エリア、里美牧場エリアの入り込み客の現状と今後の振興策についてお伺いいたします。

次に、J T跡地発掘調査事業についてお尋ねいたします。

初めに、発掘調査の概要についてであります。

昨年の発掘調査を踏まえ、今年度の追加調査に至った経緯について、まずお尋ねいたします。

昨年6月から9月にかけて行われたJ T跡地発掘調査は、埋蔵文化財包蔵地における外周道路改良工事に伴う調査でした。戦国大名佐竹氏の居城、太田城については、これまでも試掘などは行われたとはいえ、大がかりな調査ははじめてのことでした。

発掘されたものとしては、太田城の中世時代の堀跡、縄文から平安時代にかけてと思われる土器や石器、竪穴式住居跡などでした。中でも3条の堀跡は、その規模からして当時の佐竹氏の勢力、威力を示すのに十分なもので、文教民生委員会で視察した折にも、より詳しい調査の必要性があるのではないかという意見がありました。

今年度当初予算で追加調査が決定され、現在、発掘調査が進んでおりますが、昨年度の調査結果を踏まえ、追加調査の必要性を決定するに至った経緯についてお尋ねいたします。

次に、今後のスケジュールについてお聞きいたします。

今回の追加調査については、4月から始まり、長梅雨や猛暑の中での大変な発掘作業だったと思いますが、これまでの作業の進捗状況と調査の終了はいつ頃になるのか。そして、その間に、どのような形で現地説明会を行う予定なのか、お伺いいたします。

最後に、今回の発掘調査の分析、検証についてお尋ねいたします。

今回の追加調査により、平安時代末期にこの太田の地に身を起こし、戦国時代にその名をはせた佐竹氏の居城、太田城の堀跡が800年ほどの時を超え、私たちの前に姿を現しました。城郭の裏門に続く搦手の位置に、あの幅、深さで、しかも幾条もの堀を造成した佐竹氏の勢力もさることながら、常に戦と隣り合わせの情勢であったことがうかがい知れます。この堀跡は、今後の佐竹氏研究はもとより、本市の大変重要な歴史遺産となり得るものと思われませんが、今後の分析、

検証をどのように行っていくのか、お伺いいたします。

以上、ご答弁をお願いいたします。

○成井小太郎議長 答弁を求めます。商工観光部長。

〔小瀧孝男商工観光部長 登壇〕

○小瀧孝男商工観光部長 観光事業の振興についてのご質問において、商工観光部関係２点のご質問にお答えいたします。

まず、１点目の温浴施設の現況と対策についてでございますが、市の温浴施設につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、本年３月１４日から営業を休止しておりましたが、本年６月８日に茨城県が外出自粛要請を解除され、市においても、同日から各施設の営業を再開したところでございます。

市の観光に係る温浴施設、金砂の湯、竜っちゃん乃湯、ぬく森の湯の利用状況でございますが、営業再開後の６月８日から８月３１日までの約３か月間の入り込み客数を申し上げますと、金砂の湯の入込み客数は、前年の同時期比３２．７％の５，４２１人となっております。同様に、竜っちゃん乃湯の入込み客数は、前年同時期比４９．８％の２，３１０人で、ぬく森の湯の入込み客数は、前年同時期比５０．０％の６，１７７人でございました。

次に、感染対策でございますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国、県、業界団体等が作成するガイドラインに沿って、従業員・利用者へのマスク着用及び入館時の検温チェックや利用者名簿の作成、受付での飛沫防止のためのビニールカーテンの設置や消毒液による手指の消毒、さらには脱衣場、浴室においてもソーシャルディスタンスが保たれるよう洗い場の利用者数を制限するなどのほか、休憩室、レストランにおいて、テーブルやいすなどの座席数を減らし、社会的距離が保てるよう徹底して感染防止に取り組んでいるところでございます。

また、施設の運営や雇用の維持でございますが、３月からの営業自粛や営業再開後も入り込み客が元に戻らない状況から、国の持続化給付金や雇用調整助成金の支援を受けており、市としましても、市の方針により、本年３月に休業措置をした施設の指定管理者に対しまして、本議会で休業に係る減収相当分の補償について、ご提案させていただいているところでございます。施設の指定管理者につきましても、営業時間の短縮や休業日を１日増やして週休２日にするなど、経費削減を図りながら運営を図っております。

なお、ぬく森の湯につきましては、平成３０年度に大規模施設改修工事を行っておりますが、金砂の湯につきましては、平成１２年度の増改築から２０年が経過し、竜っちゃん乃湯につきましても、平成１３年度の増改築から１９年が経過しており、施設や設備の老朽化も入り込み客数に影響を与えている１つの要因と捉えております。昨年より空調機器の更新を図るなど設備更新を進めているところでございますが、今後、状況を見ながら修繕を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、竜神峡エリア、里美牧場エリアの現況と今後の振興策についてでございますが、まず、竜神峡エリアの現況について申し上げますと、竜神大吊橋については、本年４月１４日から５月１７日まで、バンジージャンプについては、本年４月１４日から５月１８日まで、竜神ふ

るさと村、竜の里公園については、4月1日から6月7日までの間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設利用を休止しておりました。利用再開後の利用者数を申し上げますと、竜神大吊橋の5月18日から8月31日までの渡橋者数は3万6,846人で、昨年の同時期比83.6%となっております。

同様に、バンジージャンプの5月19日から8月31日までの体験者数は3,181人で、前年同時期比の74.0%となっております。

同様に、竜神ふるさと村の6月8日から8月31日までの入り込み客数は281人で、前年同時期比の38.9%でありましたが、竜の里公園は651人で、前年同時期比150.3%でございました。これは、近年のキャンプブームに加え、ソーシャルディスタンスを確保しやすいアウトドアが外出先に選ばれたものと考えております。

次に、里美牧場エリアの現況についてでございますが、プラトーさとみにおきましても新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月17日から6月7日まで施設の利用を休止しております。施設利用再開後の利用者数を申し上げますと、6月8日から8月31日までの利用者数は377人で、前年同時期比51.4%となっております。キャビン利用者につきましては67人で、前年同時期比53.6%となっております。

次に、竜神峡、里美牧場エリアの今後の振興策についてでございますが、竜神峡エリアでは、奥久慈グリーンライン林道整備が、令和5年完成を目途に進められており、その進捗に応じて、竜神大吊橋と竜神ふるさと村を核とした回遊性の向上が図れる総合的な計画について、今後、検討してまいりたいと考えております。

また、里美牧場エリアでは、近年のキャンプ需要が高まっている状況でありますことから、里美カントリー牧場内のローラー滑り台を撤去いたしまして、新たにテストプランとして、オートキャンプ場4区画の整備を進めており、来年4月からのオープンを目指しております。オープン後の利用客の動向を注視しながら、さらなる整備について、今後、検討してまいります。

○成井小太郎議長 農政部長。

〔根本勝則農政部長 登壇〕

○根本勝則農政部長 観光事業のコロナ禍における観光振興についての2点目の道の駅ひたちおおたの現況と対策についてのご質問にお答えいたします。

道の駅ひたちおおたの現況と対策でございますが、売上額と利用者数の推移、運営上の課題、雇用の状況、新型コロナウイルス感染対策の4項目につきまして、お答えいたします。

初めに、売上額と利用者の推移についてでございますが、道の駅ひたちおおたでは、延べレジ通過者数を利用者数としております。

今年3月から7月までの5か月間の全体の売上額及び利用者数の推移でございますが、売上額は約2億800万円で前年同期間の約70%、利用者数は約20万6,000人で前年同期間の約67%となっております。また、月ごとの売上額及び利用者数でございますが、3月の売上額は約5,300万円、利用者数は約5万4,000人で、売上額、利用者数とも前年同月の約86%。4月の売上額は約2,800万円で前年同月の約45%、利用者数は約2万2,000人で、前年同

月の約40%。5月の売上額につきましては、約3,000万円で前年同月の約44%、利用者数は約3万2,000人で前年同月の約42%。6月の売上額は約4,800万円で前年同月の約94%、利用者数は約4万8,000人で前年同月の約87%。7月の売上額につきましては、約4,900万円で前年同月の約94%、利用者数は約5万人で前年同月の約87%となっておりまして、緊急事態宣言が解除されました6月以降につきましては、全体としては売上額、利用者数共に回復傾向となってきてございます。

このような中におきまして、レストランにつきましては、7月1か月間の売上額及び利用者数は共に30%台にとどまっており、他のテナントと比べましても回復が依然として低い状況となっております。

レストランについては、市内はもとより、首都圏ほか県内外からお越しくださるお客様をターゲットとしておりますが、この間のコロナ禍の中で一般的に外出が控えられていることや滞在時間が比較的長いこと、レストラン内での感染への不安からくる敬遠等も利用者の回復の度合いが低くなっていることの要因の1つと考えております。

次に、運営上の課題といたしまして、道の駅ひたちおおたに入居しているテナントへの対応でございますが、国による4月16日の緊急事態宣言の全国への拡大により、県においても、4月17日に飲食店及び料理店に対しまして、4月22日から5月6日までの期間について、休業要請がされましたことから、指定管理者による緊急テナント会議を開催し、営業終了時間を1時間短縮することや4月18日以降の土日及びゴールデンウィーク期間中となる4月29日から5月6日までの期間については、コンビニエンスストアを除きまして、県の要請に応じる形で休業とするなど、指定管理者と連携を図りながら随時対応してまいりました。

また、集客策などの取組についてでございますが、これまで、道の駅ひたちおおた全体のイベントを毎月実施して集客を図ってまいりましたが、県のコロナ対策指針においては、現在のところ、外出自粛は実施されておりましたが、高齢者等への注意喚起が続いており、積極的なイベント等による集客が行えないなど、厳しい状況となっております。

このような状況により、今後の集客策が課題となっておりますことから、全体的な取組といたしまして、全てのテナントによる統一した季節感のあるフェア等を企画し、道の駅ひたちおおたのホームページや施設内外へのポスターの掲示、情報発信コーナーでのPRチラシの配布、さらには道の駅ひたちおおたへのテレビ、ラジオ、新聞等の取材を活用したPRなどによりまして、ひたちおおたの魅力を発信する集客策を行うとともに、レストランにつきましては、新型コロナウイルスが拡大し始めました3月から店内での感染防止を図るために、これまでのビュッフェ方式からプレート方式へ食事の提供スタイルを変更してございましたが、レストラン本来の魅力でありますビュッフェ方式での食事の提供を再開することを視野に、現在行っている入店時の検温のほか、再開時におけるトングの1回ごとの交換や飛沫防止の亚克力版の設置などの対策を追加した上で、本市産の野菜、農産物等を活用した四季折々の魅力あるメニューの提供を行うことにより、集客の増を図ってまいりたいと考えております。

次に、雇用の維持でございますが、4月中旬から5月下旬にかけての休業時には、指定管理者

が勤務シフトの調整を行うことにより、従業員の雇用を継続しており、休業に伴う賃金の手当については雇用調整助成金を、事業の継続については持続化給付金を活用し、雇用の維持に努めているところでございます。

また、各テナントにつきましては同様の手当のほか、家賃支援給付金により補填ができるよう指定管理者を通じて国の事業を活用し、社会保険労務士による相談会を4回開催しております。

次に、新型コロナウイルス感染防止対策に関する取組についてでございますが、道の駅施設全体の感染防止対策といたしましては、県の新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するための飲食店等のガイドラインに従いまして、レストラン、フードコート内のテーブル、いすの配置を半数に減らして必要な間隔を確保するとともに、フードコートにつきましては、対面席への飛沫防止の衝立の設置や定期的な換気、アルコール等による消毒、清掃を利用者ごとに行っているほか、会計時のレジについては、ビニールカーテンを設置するなど対策を講じているところでございます。

今後におきましても、引き続き、県から示されております新しい生活様式の遵守、飲食店等のガイドライン、いばらきアマビエちゃんの登録を行うこと等を確認しまして、指定管理者との情報共有、連携を図りながら感染防止に進めてまいります。

○成井小太郎議長 教育部長。

〔武藤範幸教育部長 登壇〕

○武藤範幸教育部長 J T跡地発掘調査事業についての発掘調査の概要についての3点のご質問にお答えいたします。

初めに、今年度の追加調査に至った経緯についてでございますが、昨年度は、J T跡地の外周に当たる道路拡幅工事に伴う発掘調査を実施してきたところでございます。その結果につきまして、市文化財保護審議会委員や中世史を専門とする方にご意見をお伺いしたところ、調査範囲が狭いためJ T跡地内の追加調査の必要性があるとの意見が多くありまして、市といたしましても、以前実施いたしました試掘調査の成果を踏まえまして、調査する必要があると判断し、追加調査を行うこととしたものでございます。

次に、今後のスケジュールについてでございますが、調査の工期は、令和2年4月28日から11月30日ございまして、全体の調査面積約4,600平方メートルを3つの調査区に分割し、調査を行ってございます。

調査区1は、J T跡地東側の栄町広場側からJ T跡地中央部までの箇所と南側伊勢又米穀製粉株式会社側から同じく中央部までの箇所、合わせまして約1,500平方メートル。

調査区2は、J T跡地の西側の箇所で、南北に伸びる約2,200平方メートル。

調査区3は、J T跡地の北側の箇所で、東西に伸びる約900平方メートルで、このうち調査区1と2は、掘削作業がほぼ終了しており、今後、さらなる詳細な遺物、遺構の調査を行ってまいります。調査区3につきましては、現在、重機による掘削作業が行われており、掘削作業終了後に遺物、遺構調査を行うこととしてございます。

また、10月中旬には市内小中学生を対象にした現地説明会を開催するとともに、10月下旬

の土・日曜日には一般の方を対象とした現地説明会を1日を4回に分け、各回ともおおむね50分程度とし、事前の申込みにより開催する予定でございまして、より多くの皆様にご覧いただけますよう広く周知してまいります。

全体といたしましては、11月上旬には遺物、遺構の調査が終了し、11月中旬から埋め戻し作業に入り、11月下旬には調査を完了する予定でございます。

次に、今回の発掘調査の分析、検証についてでございます。

発掘調査により出土した遺物や遺構につきましては、写真撮影や測量による記録保存を行いまして、次年度に「文化財保護法」に基づく調査報告書を作成する予定でございますが、今年度中には調査の概要をまとめ、市文化財保護審議会委員や専門家の方々にご意見を伺うなど、可能な限りの分析、検証を行ってまいりたいと考えてございます。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

〔10番 深谷秀峰議員 質問者席へ〕

○10番（深谷秀峰議員） ご答弁ありがとうございました。それでは、再質問をさせていただきます。

初めに、コロナ禍における観光事業の進行の中で、温浴施設の件なのですが、温浴施設は、いずれも地域の雇用の場の確保ということでは、大変重要なものとなっております。このコロナ禍がいつまで続くのか、収束が見通せない現状では、やはり、市からの補填が必要になってくると思いますが、これについての考え方をお聞きいたします。

○成井小太郎議長 商工観光部長。

○小瀧孝男商工観光部長 ただいまのご質問にお答えいたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市の方針に基づき本年4月以降、休業措置をした施設の指定管理者に対しまして、各施設の運営状況を注視しながら、休業に係る減収相当分の補償について対応を検討してまいりたいと考えております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） よろしく願いいたします。次に、道の駅ひたちおおたについてですが、先ほどのご答弁で、それぞれの月の売上額、入場者数を詳しくご答弁されました。その中で、やはり一番落ち込んでいるのがレストランです。このレストランの落ち込みが、ほかのテナントに比べて非常に大きいというのは、今後どうにか改善策を考えていく必要があると思うんですけども、これについての考え方をお聞きいたします。

○成井小太郎議長 農政部長。

○根本勝則農政部長 ただいまのご質問にお答えいたします。

先ほどの答弁でも触れさせていただいたところなのですが、現在のようなコロナ禍におきましては、積極的なイベント等による集客が行えない状況ではございますけれども、季節感を感じられる本市産の野菜、農産物等を活用しました魅力あるメニューの強化やレストラン本来の大きな魅力でありますビュッフェについても、飛沫防止の亚克力版の設置や県の飲食店等のコロナ感染対策のガイドラインに従いまして、共用物の定期的な消毒、トングにつきましては、使用のた

びごとに交換するなど、感染防止を整えた上でビュッフェ方式等の再開をしてみたいと考えております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） 今回の新型コロナウイルスによって、全国各地の様々な形の飲食店が非常に苦境に陥っているというのは、様々な報道で私たちも知ることができます。

先ほどご答弁された道の駅の飲食部門のレストランとフードコートの売上額等を見ると、レストランが非常に落ち込んでいてフードコートはそれなりに健闘している数字が出てきていると思うんですが、この落ち込みの差をどのように分析しているのか、お聞きいたします。

○成井小太郎議長 農政部長。

○根本勝則農政部長 ただいまのレストランとフードコートの落ち込みの差に関します分析でございますが、県の飲食店のコロナ感染対策のガイドラインに従いまして、定数の半分程度に座席を減らしまして営業を行っておりますが、フードコートについては、フードコート内のほか、建物の外のイベント広場やデッキスペースで飲食される方が増えておりますこと。また、もともと利用者の回転が比較的早いフードコートと比較いたしまして、レストランについては、食事をゆっくり楽しんでいただくスタイルでありまして、食事の性質が異なることや、さらには、コロナ禍にあつて感染者が増加傾向にあった県内外からのお客様も利用されるということで、滞在時間が比較的長いレストラン内での感染への不安からくる敬遠などによりまして、回復の差に生じてきているものと考えております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） 難しいと思うんですけども、今、ご答弁されたように、フードコートとレストランのこの落ち込みの差というのは、もしかすると、裏を返せば改善策につながっていくかもしれないので、ご検討のほどよろしくお願いしたいと思います。

続いて、3番目の竜神峡エリア、里美牧場エリアについてであります。

これは、今回初めて、里美牧場エリアについては、オートキャンプ場ということが提案されましたけども、テストプランとして4区画で始まって、これが好評を得れば、さらに、この区画を拡大していくということで、非常に期待しております。

これは要望なんですけども、里美牧場については、県酪連が撤退し、今年度いっぱい小里牧場が閉牧となります。観光地としてのいろいろな必要な部分が、1つ2つなくなっていく現状では、今回、オートキャンプ場を提案されたことは、非常に私は期待もしていますし、今後、十分頑張ってください、里美牧場が、これからも観光地として残っていけるようにお願いしたいと要望いたします。

それでは、大きな2点目のJT跡地の発掘事業について、再質問させていただきます。

先ほども1回目で言いましたけども、文教民生委員会では、もう4回、現地を視察しています。行くたびに発掘される箇所が広がっていった新たな堀が出現しているのを見ると、これは非常にすばらしいことを教育委員会では取り組んだなど非常に評価をしているんですけども、今後のスケジュールの中で、1点お尋ねしたいと思います。

あれだけの規模の堀跡が発掘されて、あれをできるだけ多くの方に見てもらいたいという思いは教育委員会も同じだと思うんですけども、先ほどのご答弁では、11月末には埋め戻すということでありましたけども、もうちょっと埋め戻す期間を延ばしてもいいんじゃないかなと思うんですが、その点については、どのように考えていますか。

○成井小太郎議長 教育部長。

○武藤範幸教育部長 まず、発掘しております堀跡を多くの皆様方に見てもらうため、先ほども答弁させていただきましたが、小中学生や広く周知した上での一般の方を対象とした現地説明会を開催することで、まずは対応してまいります。さらに、より多くの皆様に見ていただく機会の確保のため、工期内におきまして、見学できる日時を追加することについても検討してまいります。

なお、埋め戻す時期でございますが、今後、専門家等のご意見をお伺いした中で方向づけをしてまいります。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） あと、今後の分析、検証の点なんですけども、先月も文教民生委員会で視察いたしました。ちょうど南側から北に向かって視察していったんですけども、そうすると正面に太田一高の校舎が見えるんです。高校時代、高校野球の応援で、歌ったというか歌わされた応援歌をそのとき思い出しました。佐竹源氏の白旗が、太田の館いずるとき、関八州に敵はなく。まさしく800年前から、あの堀を渡って、幾千万の強者が出陣していったんだろうなと思ひ描くんですけども、教育委員会で行う、こういう埋蔵文化財の発掘調査の終点というか、それは報告書を作ることで終了だと思うんですけども、今回、非常に貴重な佐竹氏の居城の太田城の搦手とはいえ、あれだけの規模の堀があったということは、やはり後世に、報告書も必要だけでも、それ以外の形で残していく必要があるのではないかなと私は思います。

例えば、今の時代ですから、いろんな映像で堀跡を残していく。もうちょっと言えば、あそこまですばらしい堀があるならば、太田城は一体、鯨ヶ丘にどういうふうにとびえていたのか、そういうものも気になりますよね。そうすると、専門家の人にかなり協力してもらわなければ不可能だと思いますけども、3Dのグラフィックで当時の太田城の全体像を作ってみるとか。もっと言えば、ジオラマを作成して、子どもでも一目瞭然に太田城の姿が分かる、そういうことも、ぜひとも取り組んでいってほしいなと思うんですけども、それについてのご所見をお伺いいたします。

○成井小太郎議長 教育部長。

○武藤範幸教育部長 まずは、発掘いたしました場所の調査結果をきちんと評価することが重要であると考えてございます。その結果等を踏まえまして、調査報告書以外の議員ご提案の多くの方がより親しみやすく、分かりやすい資料の保存や作成等につきましては、専門家や有識者のご意見をお伺いしながら、その内容や手段、方法について検討してまいります。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） ありがとうございます。質問を終わります。